

決算説明会

2014年3月期第3四半期

2014年2月4日
ミネベア株式会社

1Q-3Q累計の売上高、純利益は過去最高を更新

(百万円)	2013年3月期 1Q - 3Q累計	2014年3月期 1Q - 3Q累計	前年同期比 伸び率
売上高	210,807	277,934	+31.8%
営業利益	10,644	23,316	2.2倍
経常利益	9,261	20,121	2.2倍
純利益	4,796	15,880	3.3倍
一株当たり 純利益(円)	12.83	42.56	3.3倍

為替レート	13/3期 1Q - 3Q累計	14/3期 1Q - 3Q累計
US\$	79.75円	98.54円
ユーロ	101.97円	130.70円
タイバーツ	2.56円	3.19円
人民元	12.63円	16.06円

2014年2月4日

1

2014年3月期第3四半期累計の連結業績は、前年同期に比べ売上高が31.8%増加し2,779億3,400万円、営業利益は2.2倍の233億1,600万円、純利益は3.3倍の158億8,000万円となりました。

9カ月間の売上高と純利益は、2008年3月期の売上高2,534億円、純利益125億円を超えて、過去最高を更新しました。

当社の主要製品であるボールベアリングをはじめとして、ロッドエンド、ピボットアッセンブリ、モーター、LEDバックライトへの旺盛な需要が続いています。

3Qの売上高、営業利益、純利益は過去最高を更新

(百万円)	2013年3月期	2014年3月期		前年同期比 伸び率	前四半期比 伸び率
	3Q	2Q	3Q		
売上高	71,705	95,482	97,135	+35.5%	+1.7%
営業利益	2,943	9,465	10,312	3.5倍	+8.9%
経常利益	2,319	8,682	8,370	3.6倍	-3.6%
四半期純利益	1,076	5,920	7,107	6.6倍	+20.1%
一株当たり 四半期純利益(円)	2.89	15.86	19.04	6.6倍	+20.1%

為替レート	13/3期3Q	14/3期2Q	14/3期3Q
US\$	79.79円	98.34円	99.56円
ユーロ	103.36円	129.61円	135.53円
タイバツ	2.60円	3.12円	3.16円
人民元	12.76円	16.02円	16.31円

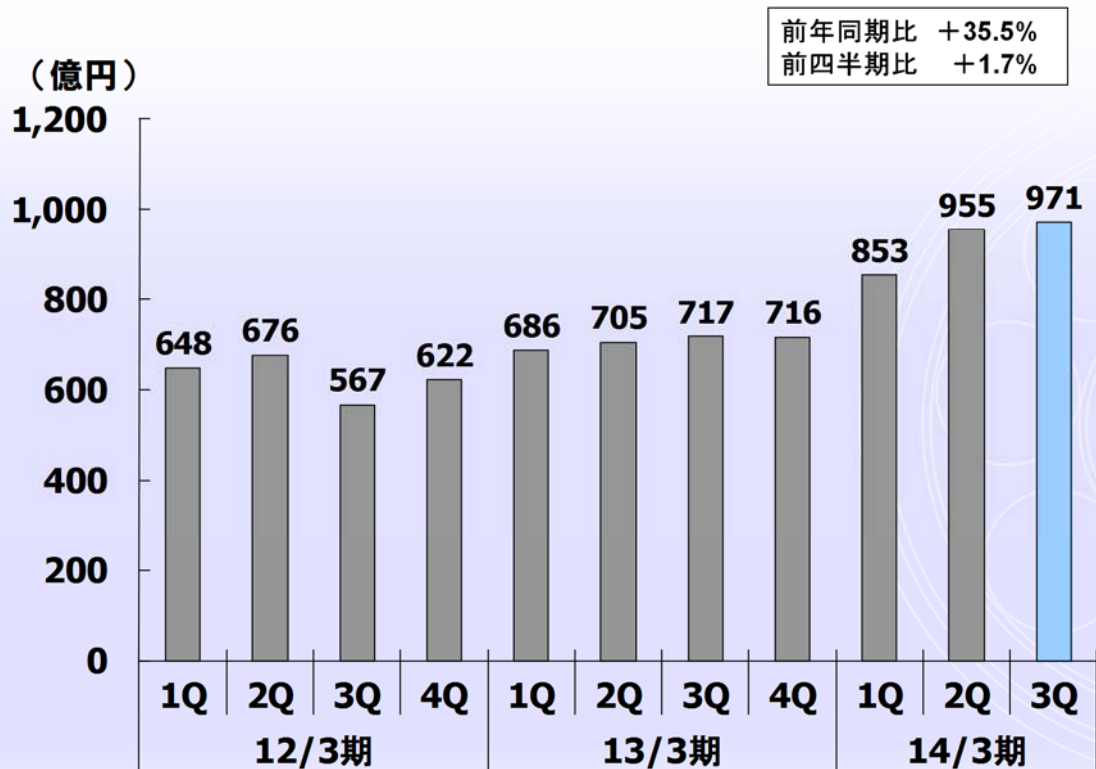
2014年2月4日

2

2014年3月期第3四半期の連結業績は、売上高は前年同期比で35.5%増、前四半期比で1.7%増の971億3,500万円でした。営業利益は前年同期比で3.5倍、前四半期比で8.9%増の103億1,200万円、純利益は前年同期比で6.6倍、前四半期比で20.1%増の71億700万円となりました。

当社は2002年3月期から四半期決算を開示していますが、前四半期である第2四半期は売上高、営業利益、経常利益で過去最高を更新しました。第3四半期はさらに売上高、営業利益、純利益で過去最高を更新しました。

為替の影響は、円安をうけて売上高で前年同期比プラス159億円、前四半期比プラス12億円あったと推定しています。営業利益への影響は前年同期比プラス31億円、前四半期比プラス2億円でした。



2014年2月4日

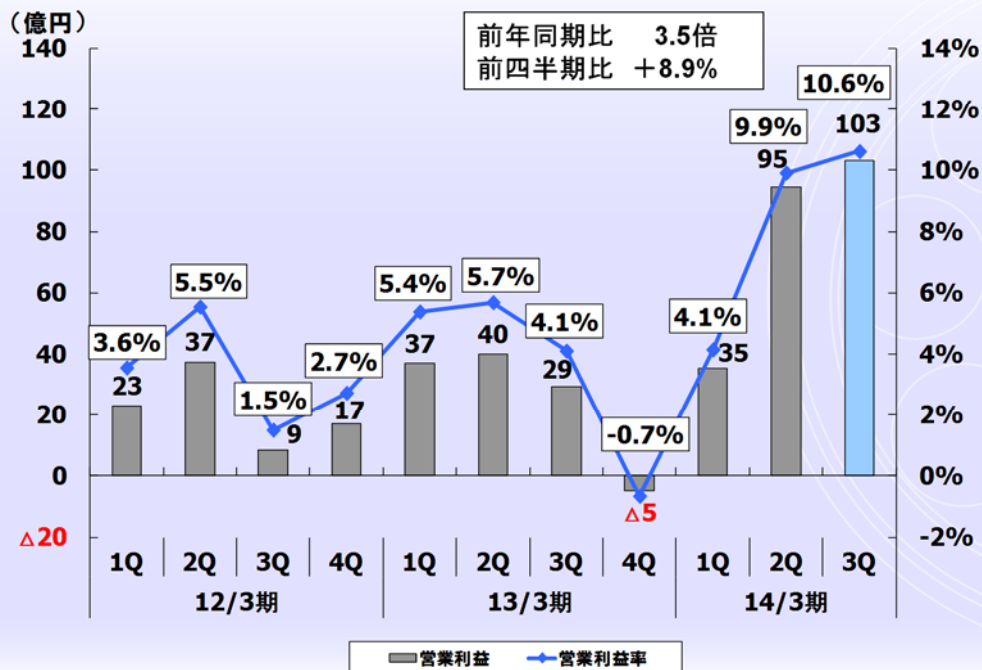
3

これは売上高の推移です。

第3四半期の売上高は前年同期比35.5%増、前四半期比1.7%増の971億円となりました。

製品別にはLEDバックライトが引き続き増収となったほか、ピボットアッセンブリー、OA機器向けモーター、複合製品も売上を伸ばしました。

3Qの営業利益は初めて100億円を突破 営業利益率も初の10%超を達成



2014年2月4日

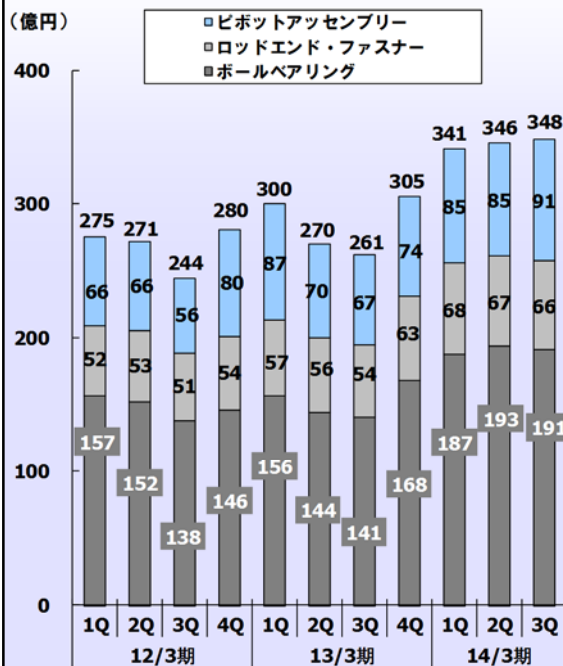
4

第3四半期の営業利益は前年同期比3.5倍、前四半期比8.9%増の103億円となり、四半期決算では初めて100億円を超えました。

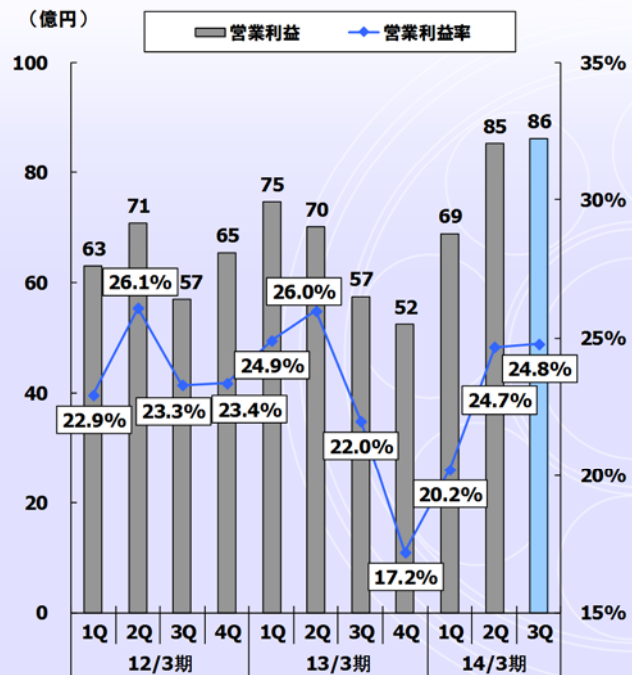
営業利益率は前四半期比0.7ポイント改善し、四半期ベースではありますが、目標の10%を超え10.6%となりました。

12月は通常、欧米のクリスマス休日や日本の正月休みで需要が落ちる季節性がありますが、今回は落ち込みが少なく、高い利益水準を維持しました。

売上高



営業利益



2014年2月4日

5

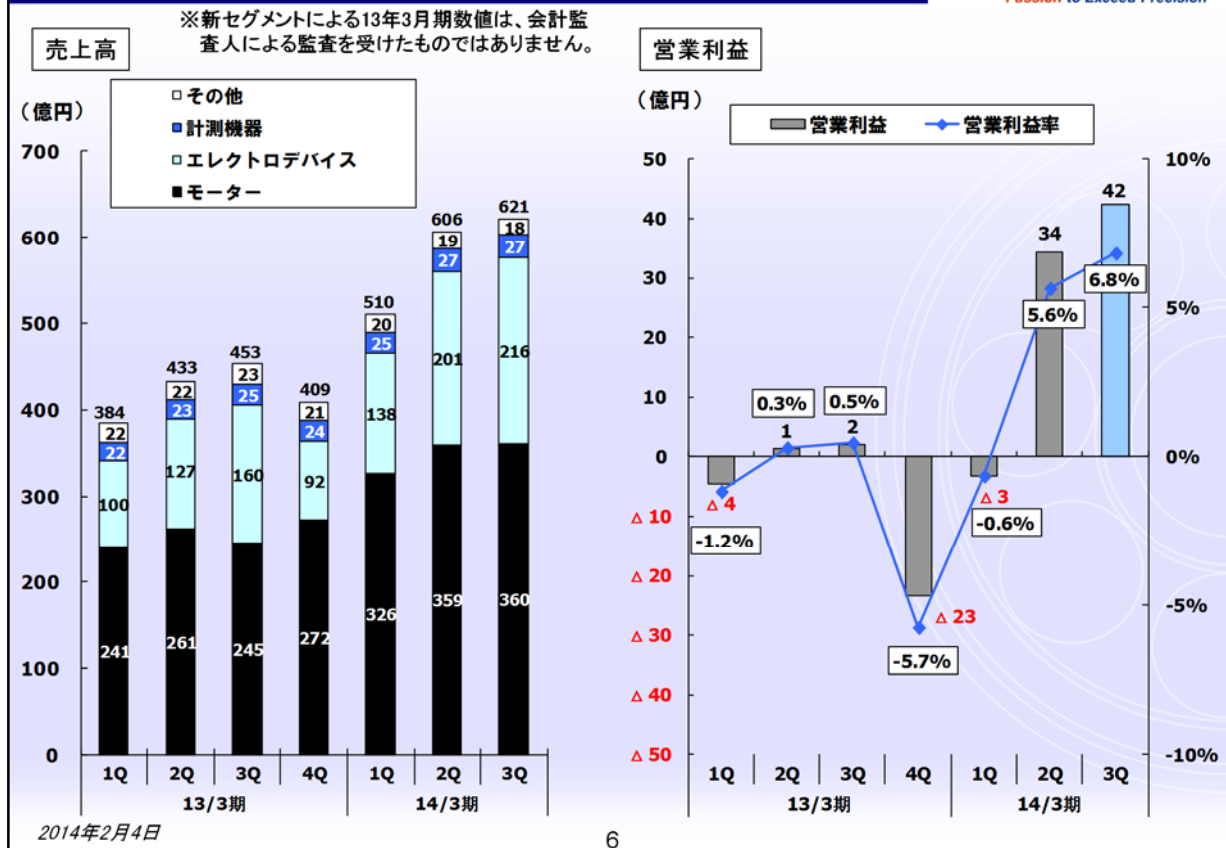
機械加工品事業セグメントの第3四半期売上高は、前四半期比0.6%増の348億円、営業利益は前四半期比1.0%増の86億円となりました。営業利益率は前四半期から0.1ポイント上昇し24.8%となりました。

ボールベアリングの売上高は、前四半期比-1.0%の191億円となりました。外部販売数量は第2四半期の水準には届きませんでした。クリスマス休日などで低迷する12月も含め、月平均1億3,000万個を超える高水準で推移しました。用途別には自動車、家電製品、OA機器、ATMなど幅広い分野で旺盛な需要が続いています。1月、2月は通常、中国の旧正月の影響で低迷する月ですが、受注が好調で月平均1億3,000万個を大きく超える外販数量を見込んでいます。

ロッドエンド・ファスナーは好調な航空機需要を受け、引き続き堅調に推移しました。売上高は欧米のクリスマス休みの影響で前四半期比マイナス1.5%と僅かに減少しましたが、利益は増加しました。中期的に拡大が期待される航空機需要に備え、タイで生産能力を増強するなど準備を進めてきましたが、今後徐々に稼働率が上昇する見込みです。

ピボットアッセンブリーの売上高は前四半期比7.1%増の91億円となりました。

10～12月のHDD市場はウィンドウズXPのサポート終了による買換えや、世界的な好景気によるPC需要の増加、ゲーム機の販売好調などにより7～9月比微増となった模様です。増販効果に加えて、安定した高水準の生産が続く、製造コストが低下し増益となりました。



6

第3四半期の電子機器事業セグメントの売上高は、前四半期比2.4%増の621億円、営業利益は前四半期比23.8%増の42億円、営業利益率は1.2ポイント改善し6.8%となりました。

第2四半期に黒字転換を果たしたモーターは、第3四半期も継続して収益改善が進んでいます。モーターの売上高は前四半期比横ばいの360億円となりましたが、利益は増加しました。製品別にはOA機器向けモーターが引き続き売上、利益ともに拡大しました。

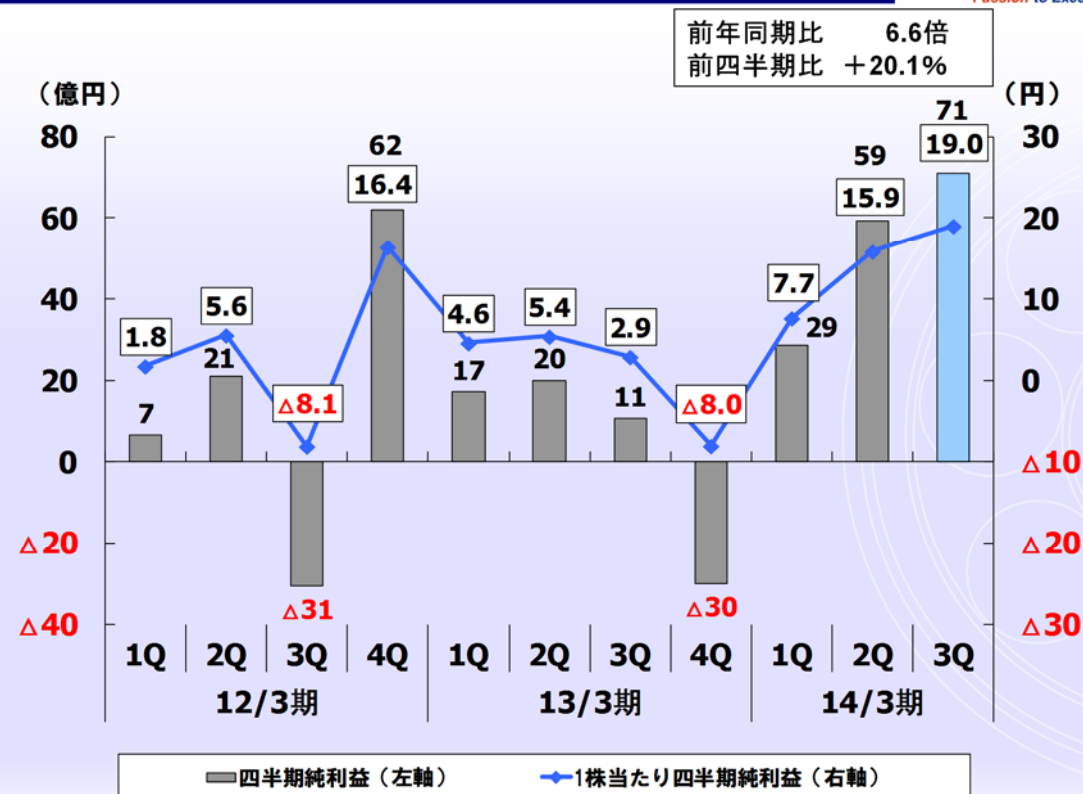
エレクトロデバイスは売上の9割を占めるLEDバックライトがスマートフォン向けに増加し、売上高は前四半期比7.5%増の216億円となりました。LEDバックライトの売上高は10月、11月に計画を上回って推移しましたが、需要期が過ぎて売上が下がり始める12月も予想していたほどの落ち込みがなく、結果として第3四半期は第2四半期を上回る売上高となりました。LEDバックライトは引き続き成長のけん引役となっています。1～3月は例年、LEDバックライトの需要が落ちる期間ですが、顧客層を拡大して来た効果もあり、例年ほどの落ち込みはない見込みです。また、来期の売上増加に備えて、生産能力の拡大を進めています。

計測機器の売上高は前四半期比横ばいの27億円となり、利益も堅調に推移しました。

純利益

四半期推移

Minebea
Passion to Exceed Precision



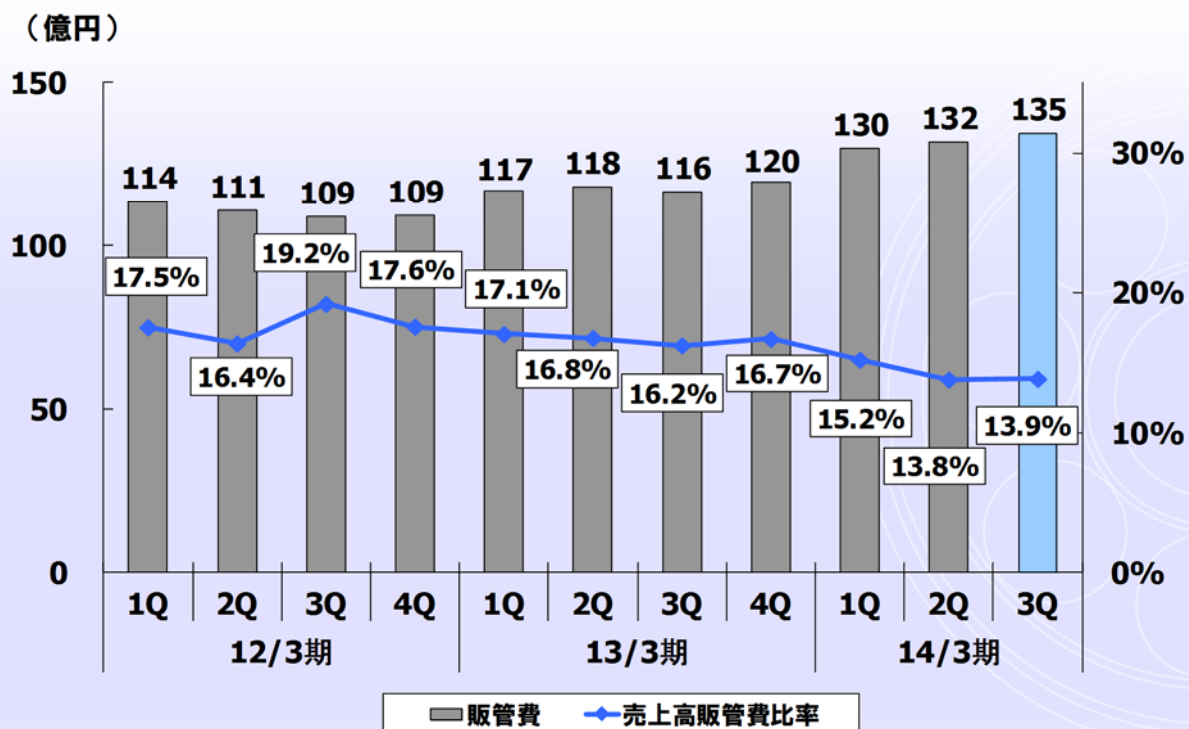
2014年2月4日

7

第3四半期の純利益は、前年同期比6.6倍、前四半期比20.1%増の71億円、1株当たり利益は19.0円となりました。

韓国のモーター子会社モアテックの構造改革の一環として、第3四半期にモアテックの子会社であるハイソニックを連結対象から除外しました。日本の会計基準に基づいた処理により、営業外損失として持分法投資損失が8億円発生しましたが、一方で特別利益として関係会社株式売却益が12億円発生し、ネットでは4億円の利益が出ています。

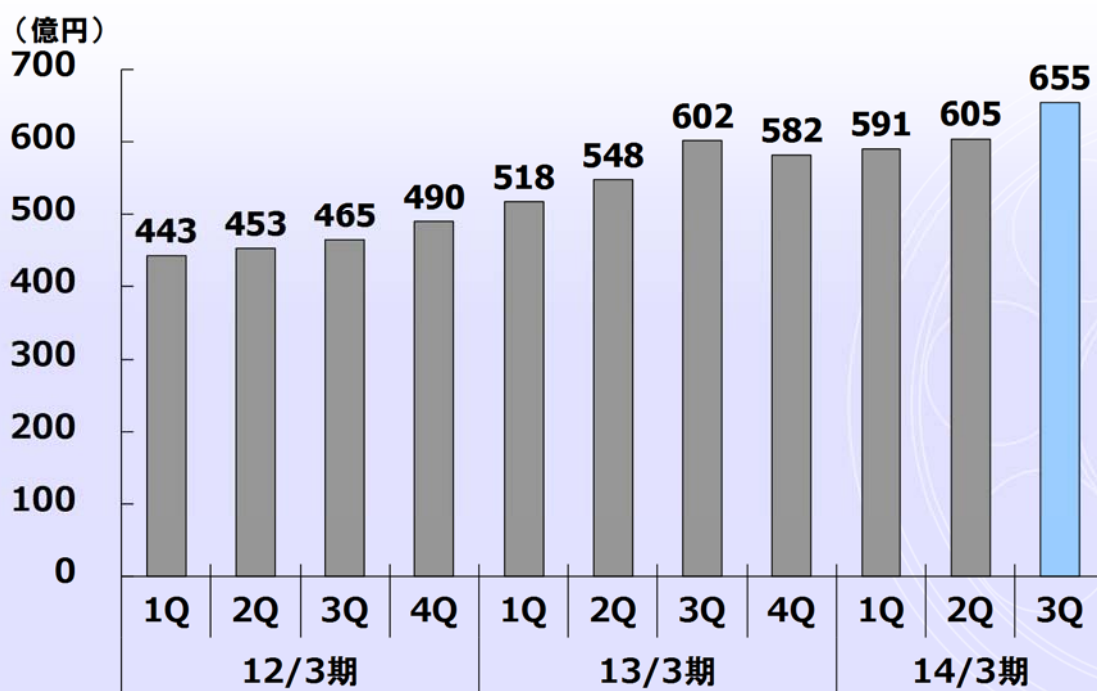
第3四半期の実効税率は25.4%となりました。これはタイにおける法人税率の低下や、日本に比べ税率の低い海外での収益改善によるものです。その結果、営業利益の伸びを上回る純利益の伸びを達成することができました。



2014年2月4日

8

販管費は売上増加に伴い、前四半期比3億円増加の135億円となりましたが、売上高販管費比率は13.9%と前四半期比で0.1ポイントの上昇にとどまりました。

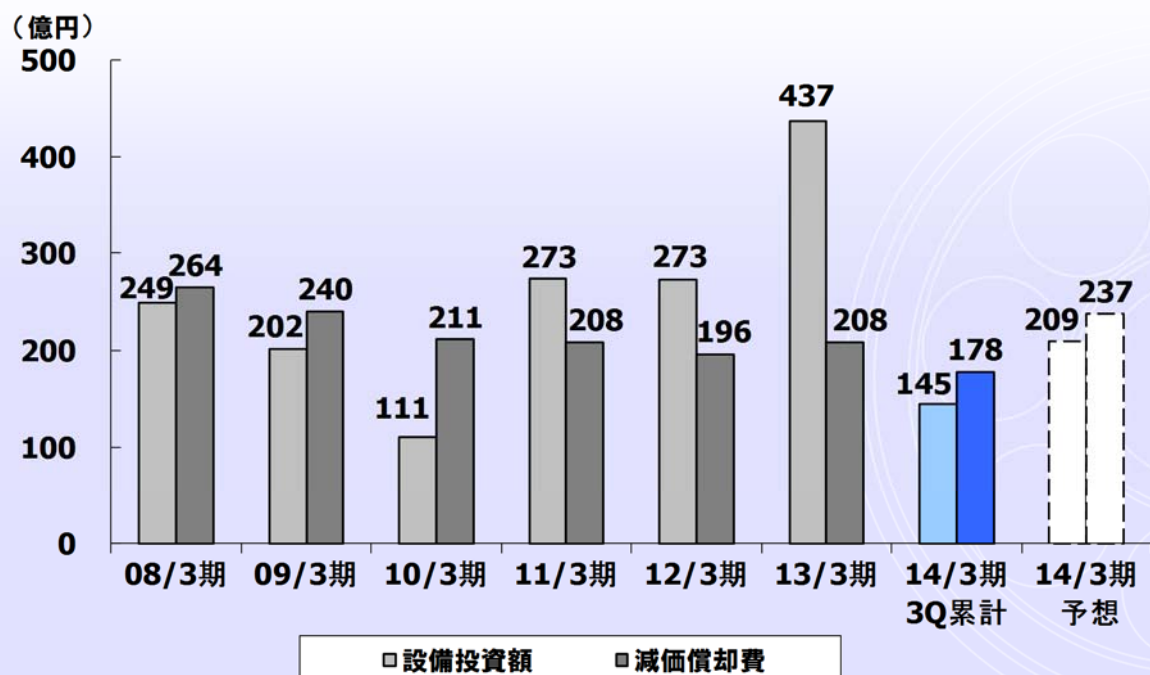


2014年2月4日

9

第3四半期末のたな卸資産は、前四半期末に比べて50億円増加しました。

円安の影響が36億円あったため、実質では13億円の増加となりました。



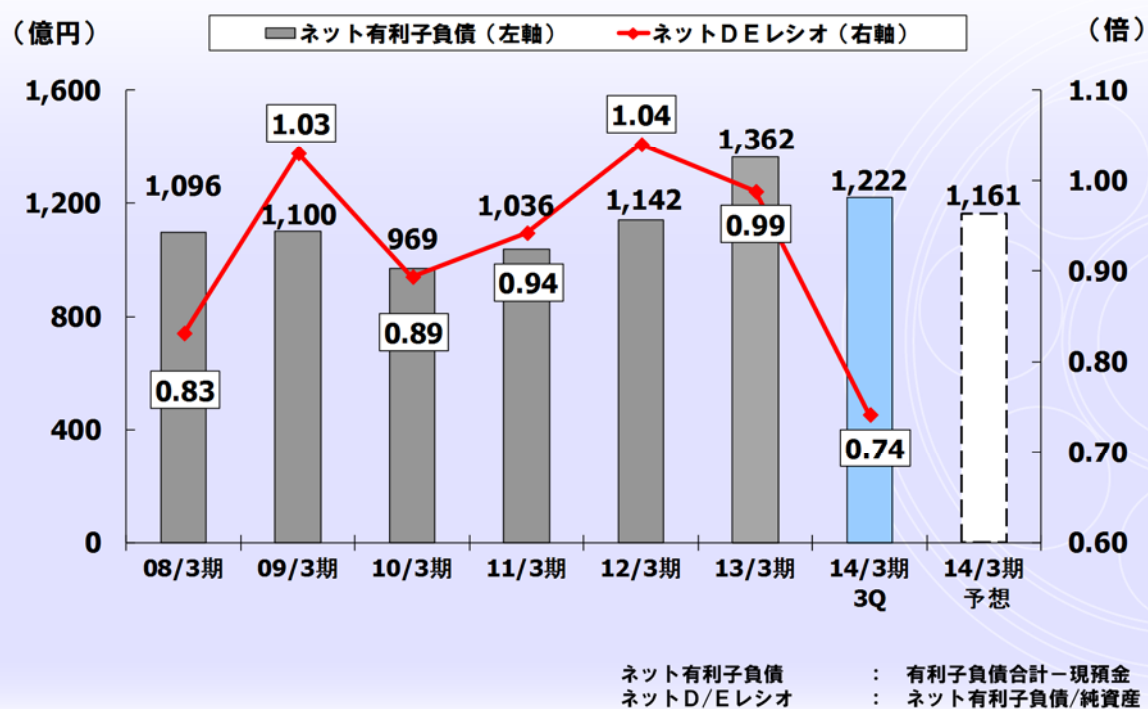
※09/3期よりリース会計処理変更に伴い、ファイナンス・リース資産を計上しています。

2014年2月4日

10

第3四半期累計の設備投資は145億円、減価償却費は178億円でした。

過去3年間、成長分野の生産能力増強のため、積極的に設備投資をしてきましたが、今期は投資を抑制し財務体質強化に注力しています。今期の設備投資は209億円と、減価償却費の範囲内に抑える予定です。



2014年2月4日

11

このグラフは、有利子負債総額から現預金を差し引いたネット有利子負債とネットDEレシオの推移です。

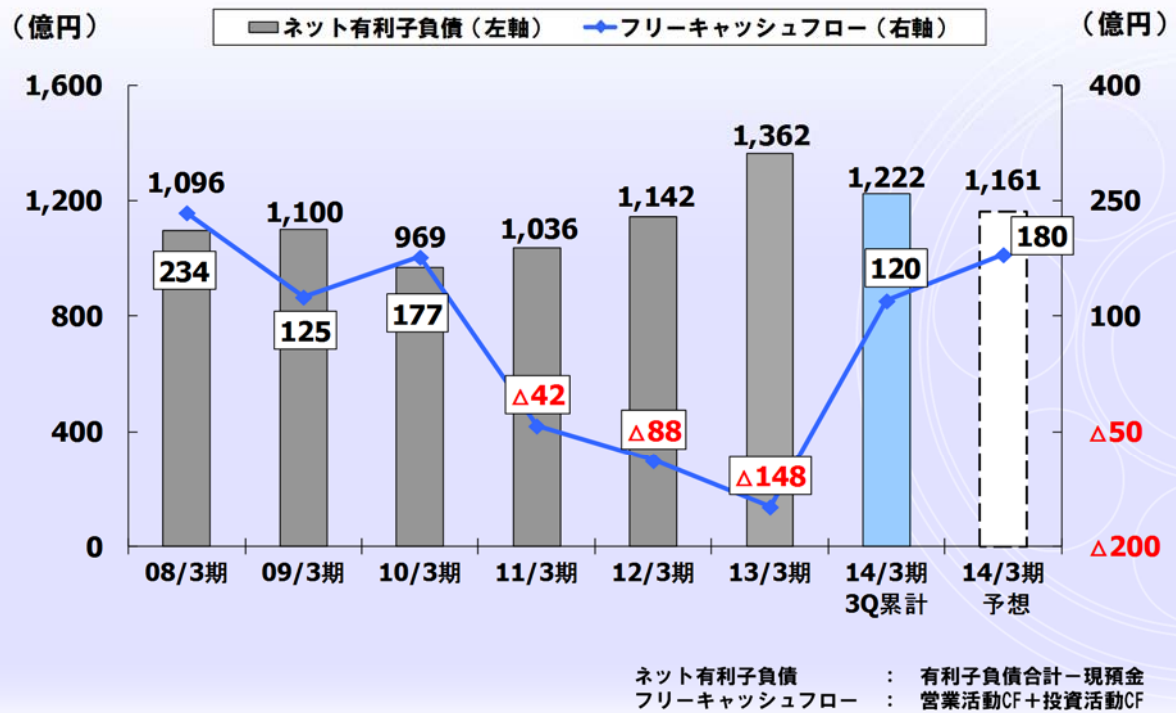
第3四半期末におけるネット有利子負債は1,221億円となり、前期末比140億円の減少となりました。

利益の増加と、円安に伴う為替換算調整勘定のマイナス幅の縮小で第3四半期末の純資産は前期末比268億円増加し、1,646億円となりました。その結果、第3四半期末のネットDEレシオは0.74まで低下しています。

フリーキャッシュフロー・ネット有利子負債

年推移

Minebea
Passion to Exceed Precision



2014年2月4日

12

今期は利益の増加で、フリーキャッシュフローは180億円のプラスに転じる見込みです。投資の抑制などでキャッシュフロー創出に努め、ネット有利子負債を削減する予定です。

通期予想を今期三度目の上方修正 売上高、純利益は過去最高水準へ

(百万円)	2013年3月期	2014年3月期				
	通期	1Q - 3Q累計	4Q 予想	通期 修正予想	通期予想 前期比	通期 11月計画
売上高	282,409	277,934	92,066	370,000	+31.0%	360,000
営業利益	10,169	23,316	6,684	30,000	3.0倍	27,000
経常利益	7,673	20,121	6,379	26,500	3.5倍	24,500
純利益	1,804	15,880	3,120	19,000	10.5倍	17,000
一株当たり 純利益 (円)	4.83	42.56	8.35	50.91	10.5倍	45.56

為替レート	13/3期通期	14/3期 1Q - 3Q平均	14/3期 4Q想定	14/3期 通期想定	14/3期 通期 11月想定
US\$	82.33円	98.54円	102.00円	99.41円	99.02円
ユーロ	106.48円	130.70円	139.00円	132.78円	129.15円
タイバーツ	2.67円	3.19円	3.20円	3.20円	3.21円
人民元	13.08円	16.06円	16.80円	16.24円	16.07円

2014年2月4日

13

これは、今期2014年3月期の業績予想をまとめたものです。

第3四半期の実績と足元の状況を勘案し、通期予想を見直しました。今期は昨年の7月と11月の四半期決算発表時に通期業績予想をそれぞれ上方修正しており、今回で3度目の上方修正となります。

第4四半期は引き続き高水準のボールベアリング外部販売数量が見込まれるほか、ロッドエンドなどの航空機部品も拡販が見込まれます。売上高と純利益は、2008年3月期の3,344億円の売上と、163億円の純利益を超えて過去最高となる見込みです。

なお、実効税率はタイの法人税率の引き下げなどにより今期以降、25%前後への低下が見込まれます。タイでは2012年に最低賃金の引き上げとセットで法人税率が30%から23%に下げられ、2013年にはさらに20%へ改定されました。海外子会社の収益力が全体的に向上したため、今後も低い実効税率水準を継続できる見込みです。

(百万円)	2013年3月期	2014年3月期				
	通期	1Q - 3Q累計	4Q予想	通期 修正予想	通期予想 前期比	通期 11月修正計画
売上高	282,409	277,934	92,066	370,000	+31.0%	360,000
機械加工品	113,573	103,485	36,015	139,500	+22.8%	135,400
電子機器	167,911	173,701	55,799	229,500	+36.7%	223,600
その他	924	748	252	1,000	+8.2%	1,000
営業利益	10,169	23,316	6,684	30,000	3.0倍	27,000
機械加工品	25,459	24,049	8,651	32,700	+28.4%	30,800
電子機器	△2,452	7,329	971	8,300	N.M.	7,100
その他	167	850	150	1,000	6.0倍	1,000
調整額	△13,004	△8,912	△3,088	△12,000	-7.7%	△11,900

※新セグメントによる2013年3月期数値は、会計監査人による監査を受けたものではありません。

2014年2月4日

14

こちらは、各事業セグメント別の修正予想です。

期末配当を1円増配し、年間8円配当へ

2014年3月期 配当

中間配当	3円/株
予想期末配当	4→5円/株
予想年間配当金合計	7→8円/株

2014年2月4日

15

当社の配当政策は、経営環境を総合的に勘案し、継続的に安定した利益配分を維持しながら、株主資本の効率向上と株主へのより良い利益配分を第一義とし、業績をより反映した水準での利益還元をはかることを、基本方針としています。

好調な業績をふまえ、期末配当を期初予想の4円から5円に1円増配し、既に実施した中間配当3円と合わせて、予想年間配当金合計を8円といたします。

ミネベア株式会社 決算説明会

<http://www.minebea.co.jp/>

上記説明会で述べられた内容のうち歴史的事実でないものは、一定の前提の下に作成した将来の見通しであり、また、それらは現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断にもとづいております。実際の業績は、さまざまな要素により、これら見通しとは大きく異なる結果となる場合があります。実際の業績に影響を与える重要な要素としては、(1)当社を取り巻く経済情勢、需要動向等の変化、(2)為替レート、金利等の変動、(3)エレクトロニクスビジネス分野で顕著な急速な技術革新と継続的な新製品の導入の中で、タイムリーに設計・開発、製造・販売を続けていく能力、などです。但し、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。本資料に掲載のあらゆる情報はミネベア株式会社に帰属しております。手段・方法を問わず、いかなる目的においても当社の事前の書面による承認なしに複製・変更・転載・転送等を行わないようお願いいたします。

2014年2月4日

16